

やまなしグッドデザインコンペティション2008 入賞作品決定

最優秀賞「洋服のように…」をはじめ17点を決定

本県の地域資源や伝統技術、先端技術を活かした製品アイデア、デザイン案を広く募集し、特に優れたものについて製品化のための開発支援を行うことにより、新たな「やまなしブランド」となりうる製品づくりを推進するとともに、地域の製造業者の製品開発・受注機会拡大を支援することを目的とする「やまなしグッドデザイン製品開発事業」。

今年度は「飾る」をテーマに生活を彩る魅力的なアイテムを募集したところ、全国から145点の応募がありました。

10月24日(金)に当センターにおいて益田文和審査委員長をはじめとする5名の審査委員により厳正な審査が行われ、次のとおり受賞作品17点を決定しました。県内からは3名が入賞しています。

- 最優秀賞：「洋服のように…」
- 優秀賞：「iza(STOOL・CHAIR)「いざ」」
- 審査員：「穂林ピン」
- 特別賞：「一筆巻きモノート」
「memo clock」
「Hourdrop」
「もものかわ」
- 入賞：「印伝を使ったワインマーカー」
「発見!! 富士山シール」
「Mt.Fuji case」
「TOOKA-透過する菜(しおり)-」
「印伝スリーブ」
「石の傘たて」
「富士山型の鏡餅」
「パンヤンと響く水の音」
「ラベル風呂敷 MUGON(ムゴン)」
「Reflect Photos Stand」
「～雨煙真石の美しい濡れ黒を愛する～」

●工業技術センターでは、コンペの入賞作品について製品化を進めるため、製造意志のある企業を募集しています。ご興味のある方はデザイン技術部までお問い合わせください。

2007年度「ワインを楽しむためのプロダクト」の受賞作品についても製造企業を募集しています。詳しくはこちらから。
http://www.yitc.go.jp/DCWeb/DC_site/YDC/ydc2007/ydc2007.html

デザイン技術部

Tel: 055-243-6101 E-Mail: dc@yitc.go.jp

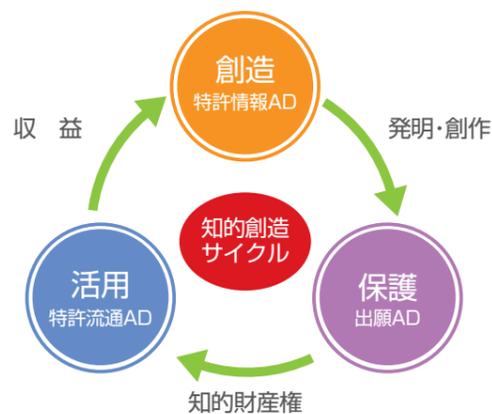
工業技術センターの主な動き

平成20年8月～11月の工業技術センターでの実施事業等

- 8.1 夏休み親子ものづくり体験見学会
亜硫酸管理技術講習会
- 8.5 貴金属加工技術講習会
- 8.24 ワインセミナー「よいワインはよいぶどうから」
- 8.26 やまなしモノづくりデザイン塾[基礎コース(全8回)]
- 9.12 ものづくり人材育成研修「分析用試料調整法」
- 9.19 ものづくり人材育成研修「EPMAによる定性分析」
- 9.30 設備機器講習会「Vレズ性雑音耐性試験機」
- 10.7 精密加工技術セミナー「弾性研磨材による金型の鏡面プラスト加工技術」
- 10.8 やまなしモノづくりデザイン塾「ファッションビジネス」(全8回)
- 10.10 設備機器講習会「エネルギー分散型蛍光X線分析装置」
- 10.17 ものづくり人材育成研修「LA-ICPによる高感度元素分析」
- 10.21 ものづくり人材育成研修「めっき技術の基礎から応用」
精密加工技術セミナー「高効率高精度エンドミル加工と深穴・深彫加工技術」
- 10.27 第2回外部評価委員会
- 10.29 研磨宝飾研究成果普及講習会
マイコンによる機械制御技術(全3回)
- 11.6 ものづくり人材育成研修「エミッション測定の実際と注意点」
- 11.7 やまなしモノづくりデザイン塾「食の商品開発」(全8回)
- 11.10 洋菓子講習会「クリスマス商戦の即戦力となる洋菓子」
材料技術講習会「鉄鋼材料と熱処理の基礎」表面改質の基礎」
- 11.12 設備機器講習会「赤外分光光度計、蛍光X線分析装置」
情報セキュリティ講習会
- 11.14 パン講習会「製パンの基礎技術」
デザイン特別セミナー「人の心を魅了するデザイン」
- 11.18 製紙技術講習会
- 11.27 ものづくり人材育成研修「実践で使えるEMC対策の基礎」
- 11.28 微細加工技術セミナー「超精密旋盤の開発とガラスの延性モード加工」



山梨県知的所有権センターでは、特許や実用新案に限らず意匠、商標、著作権など知的財産全般についても随時アドバイスを行っております。どうぞお気軽にご相談下さい。



山梨県知的所有権センター

Tel: 055(243)6046 FAX: 055(243)6047

■メールマガジンでも情報配信を行っています。ご購入の手続きはこちらから。
>><http://www.yitc.go.jp/touroku.html>
山梨県甲府市大津町2094 〒400-0055
TEL:055-243-6111 / FAX:055-243-6110
E-mail: www-admin@yitc.go.jp URL: <http://www.yitc.go.jp/>



山梨県工業技術センターニュース・通巻100号

2008 November.

Vol.100 Yamanashi prefectural industrial technology center

NEWS

●全ての県内企業経営者の方々へ贈る元気な経営応援コラム

産学官のちから

このコラムでは、国や県等の競争的資金を獲得し、大学や当センターと共同研究に取り組む県内企業の経営者にスポットを当ててお話を伺っています。

今回は、都市エリア産学官連携促進事業(文部科学省)において、国立大学法人山梨大学、山梨県総合理工学研究所、当センター等とともに高耐食性・高機能金属セパレータの研究開発に取り組んでいる株式会社松下製作所の代表取締役会長 松下慶慶さんと代表取締役社長 松下清人さんのお二人にお話を伺いました。



お話を伺った松下清人氏(左)と松下慶慶氏(右)

— 産学官での研究開発に取り組んだ経緯についてお聞かせください。

「開発テーマを持つ」ことは中小企業にとって「夢」と言ってもいいと思います。弊社も開発テーマを常に模索していましたが、なかなか見つからない時期が続いていました。そんなある日、参加していた異業種交流グループで山梨大学を視察する機会があり、そこで行われていた燃料電池の開発を見て「これだ」と思いました。早速に社内で話し合った結果、自社の将来をはじめ、県内の様々な産業に波及効果が期待できる裾野の広いテーマだと結論し、ある程度負担がかかっても今すぐに取り組むべきと判断しました。正直、当時は手探りの部分もありましたが、工業技術センターや大学等との交流を重ね、今回の事業へと発展させることができました。

— 研究開発の現在の状況についてお聞かせください。

今回の研究開発の中で、弊社はセパレータの製作をプレス化するとともに、材質と流路の最適形状について主として金型面から検討する役割で参加し、これまで3年間取り組んできました。

今年9月にベルクラシック甲府において山梨大学と県との合同研究発表会がありましたが、ここに成果品を展示することができたことで、一定の役割は果たせたものと考えています。現在の取組は平成21年3月で一旦はエンドを迎えますが、今後についても、これまで得られたデータや知見を基礎とし、性能等のさらなる向上に向けて取組を継続していく予定です。

— 産学官連携による研究開発を行うメリット等についてどのようにお考えでしょうか。

他社のレベルを直接的に肌身で体感し、それを自社のレベルアップにつなげることで非常に良い機会だと思っています。そうした中か

山梨県工業技術センターニュース・通巻100号

2008 November.

Vol.100 Yamanashi prefectural industrial technology center

NEWS

contents

元気な経営応援コラム「産学官のちから」 株式会社 松下製作所 1

特集: 工業技術センターを御社の「力」に。

・特別寄稿 「地域の活力を支える中小企業の皆様へ」 山梨県知事 横内正明 2

・我が部のセールスポイント ～各担当部長からのメッセージ～ 4-7

企画情報部 部長 樋川芳仁 / 生活技術部 部長(特別研究員) 辻 政雄

電子・材料技術部 部長(研究管理幹) 清水誠司 / 高度技術開発部 部長 藤原和徳

デザイン技術部 部長 阿部正人 / ワインセンター 支所長(研究管理幹) 原川 守

・工業技術センターの支援実績例 6-7

インフォメーション 「やまなしグッドデザインコンペティション2008」ほか 8

ら技術分野を超えたネットワークづくり等ができることにも大きな魅力を感じています。また、単独では実施が難しい大きな研究開発テーマに取り組めることもメリットですね。

— 今後の取組や展望についてお聞かせください。

セパレータ開発の今後と自社の将来を考え、今回、新しく設備を導入しました。これを活用し、セパレータのさらなる高精度化を図るとともに、どうしたらお客さんに喜んでいただけるかを常に考えながら事業に取り組んでいきたいと考えています。新分野への挑戦も進めたいですね。



株式会社 松下製作所

山梨県甲府市一宮町坪井1985-1(いちのみや坪井工業団地内) 〒405-0077

TEL:0553-47-3711(代) FAX:0553-47-3715

E-mail: matusita@matsushitass.com URL: <http://www.matsushitass.com/>

NEWS

山梨県工業技術センターニュース・通巻100号

Vol.100 Yamanashi prefectural industrial technology center

本誌掲載の写真・記事の無断転載を禁じます。© Yamanashi prefectural industrial technology center

発行日: 平成20年11月28日 編集・発行: 山梨県工業技術センター

工業技術センターを御社の「力」に。

これからの時代、中小企業がさらなる成長・発展を目指すためには、グローバル化や環境課題への的確な対応、技術・ノウハウの研究開発やオープンな連携による新しい付加価値づくり等、対応すべき課題が山積しています。こうした中、中小企業の皆様には、県の各種施策をはじめ、工業技術センターを上手にご活用いただき、御社の「力」としていただきたいと思います。

特別
寄稿

地域の活力を支える中小企業の皆様へ 山梨県知事 横内 正明



本年も押し詰まって参りましたが、県内中小企業の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、「山梨県工業技術センターニュース」が通巻100号を迎えるに当たり、中小企業の皆様に一言ごあいさつを申し上げます。

工業技術センターでは「技術支援」「研究開発」「人材育成」「情報提供」を大きな柱として、中小企業が抱える技術的課題の解決や、次世代の産業展開に向けた新技術開発などに取り組んでおります。

例えば、企業現場に直接出向いての技術支援や、企業では対応が難しい試験・研究の実施、山梨の資源を活かしたデザインによる新製品開発の支援、ものづくり人材育成のための研修会の開催など、様々な分野の企業のニーズや企業の活動ステージに応じてきめ細かな支援を行っているところです。

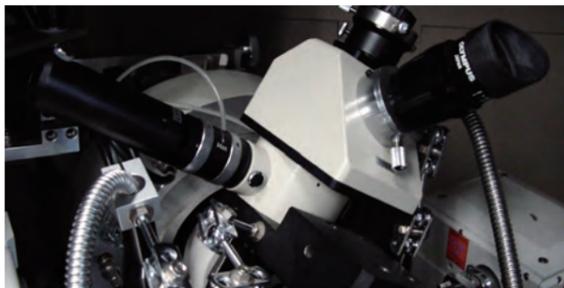
今後とも、支援サービスの向上を心がけるとともに、時代のニーズを的確にとらえた事業展開を図り、県内中小企業の皆様の期待に応えられる「信頼される工業技術セ

ンター」であり続けられるよう努力して参りますので、各種事業を積極的に利用され、工業技術センターを御社の「力」としてご活用していただきますようお願い申し上げます。

現在、米国の金融危機に端を発した世界的な景気後退の中で、県内企業の経営環境も一段と厳しさを増しております。

しかしながら、経済状況が非常に厳しい今は、次の時代を見据え、新しい知恵を作り出す時でもあります。皆様には、このピンチをチャンスに変えるため、これからどうして行くのかを考え、自らの知恵と努力により、それぞれの強みを活かした創造的な事業活動や不断の経営革新を進めていただきたいと思います。県といたしましても、そうした取り組みを積極的に支援して参ります。(参考図:山梨県の中小企業支援事業等マトリックス(右図))

むすびに、皆様の将来の飛躍を期した果敢な取り組みが、夢と希望が持てる未来の山梨を実現していくための原動力になるものと信じ、併せて、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、あいさつとさせていただきます。



●参考図:「山梨県の中小企業支援事業等マトリックス」

●…工業振興課、商業振興金融課 ▲…山梨みらいファンド
■…工業技術センター、富士工業技術センター ★…その他
◆…中小企業サポートセンター

	ニーズ	ヒト (相談・情報提供・専門家)	モノ (設備機器・制度関係)	カネ (補助、助成金・リース等)	コト (セミナー・研修・イベント)
創業・経営支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 創業したい ○ 経営の効率化を図りたい ○ 新ビジネスや新分野に乗り出したい 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 窓口相談、出張相談、オンライン相談 ◆ 専門家派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営革新計画の承認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 起業家支援融資(創業) ● 新分野進出支援融資(経営革新) ▲ 開業資金助成制度 ★ 起業化助成 ★ 異業種交流促進助成(共同での起業化) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事業可能性評価委員会 ◆ 起業家養成セミナー ▲ 起業家育成事業
技術開発・産学官連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技術開発に取り組みたい ○ 新製品開発に取り組みたい ○ 他社と連携したい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術支援、技術相談 ■ 重点支援事業 ■ センターニュース ■ メールマガジン ◆ 専門家派遣 ◆ コーディネート活動 ◆ 団塊世代活用高度技術等移転 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業者等革新技術評価制度 ■ 開放設備 ■ 共同研究 ■ 受託研究 ■ 依頼試験 ◆ インキュベーション施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● ものづくり産業支援事業補助金 ● 新分野開拓チャレンジ企業総合支援(研究開発) ▲ みらいファンド新製品研究開発支援事業(助成) ★ 研究開発助成 ★ 産学官交流促進助成 	<ul style="list-style-type: none"> ● やまなし産学官連携研究交流(山梨大学との合同研究発表会) ■ やまなしグッドデザイン製品開発事業 ◆ 産学官シーズマーケット
販路開拓・下請支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 販路を開拓したい ○ 下請取引に関して支援を受けたい 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 下請アドバイザー ◆ 取引あっ旋 ◆ セールスサポート ★ 下請かけこみ寺 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ビジネス・マッチング・ステーション 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新分野開拓チャレンジ企業総合支援(販路拡大補助金) ▲ みらいファンド新製品販路開拓支援事業(助成) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 取引拡大商談会 ◆ 山梨テクノフェア ◆ 3県連携テクノフェア ◆ 中堅企業育成支援事業 ▲ 地域技術情報発信事業(技術・要素展)
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社員教育をしたい ○ 最新情報を知りたい ○ スキルアップを図りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出前技術講座 ◆ 専門家派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設備機器講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ OFFJT派遣研修助成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ものづくり人材育成研修 ■ やまなしモノづくりデザイン塾 ■ 技術者受入研修 ■ 各種技術講習会 ◆ 経営・生産技術夜間ゼミナール ◆ 先端技術交流会(工業高校生等の工業技術センター見学)
金融・設備導入支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資金供給を受けたい ○ 新たな設備を導入したい ○ 融資・保証制度について知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 窓口相談、出張相談、オンライン相談 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 設備導入支援・貸与(割賦)・リース・資金貸付 	<ul style="list-style-type: none"> ● やまなしベンチャーファンド ● 山梨県商業振興資金 ★ 信用保証制度 	<ul style="list-style-type: none"> ● 山梨県商業振興資金等

「技術総合支援拠点のパイプ役」

企画情報部 部長 樋川芳仁



当センターは技術支援、研究開発、人材育成、技術情報提供を業務の柱とし、職員一丸となって様々な取組を行っています。総合相談・研究管理科では、企業支援の総合的な窓口業務として「企業カルテ」の整理を行い、専門知識を持つ職員同士で情報共有することで今後の迅速な対応ができるように努めています。また、各種の補助・助成金の窓口として、新技術・新製品開発や新産業の創出を目指し、国からの委託事業で産学官で行う研究開発等に対する助言・提言を担当しています。

企画科では、部長会議等を定期的実施し、業務の進捗状況等について職員間の情報共有を図るとともに、研究企画管理委員会で課題やその解決方法等について自由闊達な議論の場づくりを担当しています。また、運営協議会や業種別技術懇話会を開催し、業界団体等からの要望・意見を把握し、それらを盛り込んだ各種事業の運営につなげていきます。

技術情報科では、センター業務の広報にはじまり、特許等の技術シーズ、研究報告等の冊子の発行、研究成果物の展示を担当しています。また、センター情報をいち早くお届けするためにメールマガジンを発行しており、各種技術講習会等の開催予定のご案内を中心に、皆様のお役に立つホットでタイムリーな情報提供を行っています。是非ご利用ください。



●企画情報部

総合相談・研究管理科 Tel: 055-243-6140
企画科 Tel: 055-243-6121
技術情報科 Tel: 055-243-6122
E-Mail: plan@yitc.go.jp

「地場産業の様々な技術的課題の解決を支援」

生活技術部 部長(特別研究員) 辻 政雄

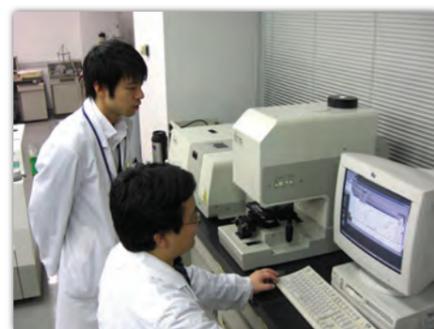


生活技術部は、食品酒類・バイオ科、研磨・宝飾科、ニット縫製・木工科の3科から成ります。いわゆる、県内の地場産業を対象にした部で、総勢12名の職員により企業が抱える技術的課題の解決に向けた技術支援や研究開発等に取り組んでいます。

当部における企業からの技術相談、依頼試験及び依頼加工の件数は、所全体のそれぞれ24%、25%及び97%を占めています。すなわち、依頼加工の割合が多いのが当部の特徴で、研磨宝飾企業からの原石切断や宝鉾石の精密研削等の依頼があります。

各科には毎日、電話や来所での相談、また分析依頼が寄せられていますが、昨今では、消費者の食の安全・安心への高まりや商品に対する品質への不安に伴い、製品の信頼性・安全性に関する事案が多くなっています。例えば、食品関係では食品中に混入した異物の特定や微生物の判定、研磨宝飾関係では貴金属装身具の機械強度や宝鉾石の含有成分、ニット関係では製品のホルムアルデヒド試験に関する相談・試験等が多く寄せられ、企業が抱える課題の解決に向けた技術支援を行っております。

今後とも、県内地場産業の技術力向上や新製品開発の支援等に積極的に対応していきますので、何でも結構ですので、ご相談いただければと思います。



●生活技術部

食品酒類・バイオ科 Tel: 055-243-6124
研磨・宝飾科 Tel: 055-243-6127
ニット縫製・木工科 Tel: 055-243-6125
E-Mail: life@yitc.go.jp

「機械・電子産業の技術的課題解決は当部にお任せください」

電子・材料技術部 部長(研究管理幹) 清水誠司



当部は、機械・電子関連のものづくり産業を中心とした広範な技術分野について、企業の皆様が抱える技術課題を解決するための技術支援や研究開発、また企業技術者のスキルアップを図るための人材育成等の業務に取り組んでいます。機械・電子という幅広い技術分野を担当している4科の特徴的な技術を紹介します。

電子応用科では、EMC(電磁環境両立性)技術、積層造形技術やコンピュータシミュレーション技術等があり、EMC対策に使用される電波暗室は企業の方々毎日のように利用されています。

工業材料科は、金属、セラミックス、複合材料等の評価技術や表面改質技術が、また化学・環境科にはめっき等の表面処理技術、高分子材料の応用や機能性に関する技術があります。2つの科には、製品トラブルや客先からのクレーム処理、品質保証等、センターで一番多くの案件が持ち込まれます。



システム開発科は、機械装置や電子機器等をコンピュータ制御するための組み込み技術、部品や製品等に温湿度を加えて寿命等を調べる信頼性試験に関する技術があります。この信頼性試験に使用する環境試験機は1年中休むことなく稼働しています。

当部では、様々な技術課題に積極的に対応しますので、「困ったな…」「どうしよう…」等と思ったら是非ご一報ください。

●電子・材料技術部

電子応用科 Tel: 055-243-6132
工業材料科 Tel: 055-243-6126
化学・環境科 Tel: 055-243-6130
システム開発科 Tel: 055-243-6144
E-Mail: electronic@yitc.go.jp

「より付加価値の高い製品加工に向けた支援を展開しています」

高度技術開発部 部長 藤原和徳



高度技術開発部では、マシンニングセンターや旋盤を用いた精密加工、放電加工機やレーザ加工機を用いた微細加工、CAD/CAM/CAEを用いた製品開発支援、さらには、加工後の評価を行う精密測定機器や分析機器等、設計から加工、測定・評価と、ものづくりの上流から下流までの一貫した機械設備を整備しています。

そして、これらの機器を用い、より付加価値の高い製品づくりに向けた支援を行っています。また、これらの機器については開放設備としても機能させて

います。企業の技術者の方々が直接操作し、試作加工や試験・分析等を行うことができますので、自己の技術力や生産品質の向上等に幅広くご利用いただいています。

人材育成では、技術セミナーや研修会を14コース開催し、基礎的な内容から一歩先の技術習得まで幅広く実施しています。より付加価値の高い製品を目指しては、0.1mm以下の小径でアスペクト比の高い微細加工穴、チタン、インコネル、ハステロイ等の特殊材料の加工、CAD/CAMと5軸マシンニングセンターを用いた複雑形状の加工等を実施しました。さらには、CAEを用いて応力や変形量、流体解析等、設計開発に関連した技術支援を行っています。多くの企業の方々のご利用をお待ちしています。



●高度技術開発部

高精度加工科 Tel: 055-243-6131
高微細加工科 Tel: 055-243-6139
E-Mail: hightech@yitc.go.jp

「中小企業の皆さんをデザイン面から支援」

デザイン技術部 部長 阿部正人



こんにちは、デザイン技術部です。時々山梨県デザインセンターと呼んでいます。平成4年にデザイン開発部として発足しましたので、人間で言えば16歳です。県内の中小企業の皆さんをデザイン面からご支援するのが仕事です。中小企業の皆さんから色々な相談をされます。例えば、新製品を開発しているが筐体をどのようにしたらよいかとか、ホームページをリニューアルしたいのだけれども…とか…、実に様々です。このような課題を解決するために、デザイン関連の雑誌や最新情報を取り揃えたり、CG関連の研究を行ったり、センターで解決できないことには専門家を紹介したり、セミナーを開講したり、デザイナーと企業の皆さんのコーディネート役をかってでたりと、皆さんの要望に応えられるよう色々なメニューを取り揃えとともに、技に磨きをかけています。

数多い支援メニューの中でも自信を持って皆さんにお勧めできるものは、CG関連技術や商品開発の実務能力を養成するデザイン塾です。

企業の皆さんの課題を解決する、さらに課題を深く掘り下げ新たな提案ができる、そんなユニークで存在感のある部を目指しています。16歳、職員数5名の若輩部ですが、デザインに関することはなんなりとご相談ください。

皆さんのご利用をお待ちしております。



●デザイン技術部 Tel: 055-243-6101
E-Mail: dc@yitc.go.jp

「地場ワイナリーの技術力向上を支援」

ワインセンター 支所長(研究管理幹) 原川 守



ワインセンターは昭和49年、山梨の地場産業であるワイン産業を支援するために全国唯一の技術支援機関(担当)として設立されました。以来、小規模ワイナリーに対する現場での技術的支援や試験設備を持たないワイナリーへの実験室の開放等、地道に地場ワイナリーの技術力向上に取り組んできています。

現在、山梨のワイン業界は輸入ワインの拡大、他県産地の台頭を受け、様々な課題に直面しています。こうした中、山梨県は平成18年度にワイン産地確立に向けた10年にわたる具体策をまとめました。現在、この方針に沿い、産・学及び農政等と協同して業界支援に積極的に取り組んでいます。

具体的には、組合と連携した小規模ワイナリーへの重点的な支援と若手醸造家・農家研究会への積極的な

参加による中小ワイナリーへの技術支援、また、高品質甲州種ワインの醸造方法の確立に向けては、液体炭酸ガスを使った醸造法の普及、また、高度分析機器の整備を行う中で高品質甲州種ワインを醸成するぶどうの要因を検討しています。

さらに、醸造技術指導体制の充実のため、フランス、ブルゴーニュに若手研究員を派遣して醸造技術エキスパートの育成に努めています。今後、新たに導入する醸造専用品種、系統選抜した甲州種ぶどうの分析研究にも積極的に取り組むこととしています。



●ワインセンター Tel: 0553-44-2224
E-Mail: wine@yitc.go.jp

工業技術センターの支援実績例

「支援が新製品開発、課題解決に結びついた例」

当センターをご利用いただくイメージづくりとして、ごく一部ではありますが、これまでご支援させていただいた具体的な事例をご紹介します。

いずれも担当への技術相談や企業巡回での出会いをきっかけとしてスタートし、その後、支援制度を効果的に組み合わせながら取組を進め新製品開発や課題解決に結びつけています。このように、当センターでは専門知識を持つ職員が様々な角度からご支援をさせていただいています。どうぞお気軽にご利用ください。



● 本県オリジナルの酵母による清酒

山梨オリジナルの酵母探し～清酒の試験醸造を行い、富士桜の花や桃の実から分離した天然酵母が有用であることを突き止めました。現在、この酵母で醸した清酒は「甲斐の花」として商品化されています。

支援の流れ:「業種別懇話会」→「技術相談」→「共同研究」



● 環境に配慮したバルブ

自社で作製した鉛レス銅合金の加工特性、強度、硬さをセンターで評価、改善の支援を行い製品化に結びつきました。現在、プラントや水道管等の継ぎ手部品として広く販売されています。

支援の流れ:「技術相談」→「依頼試験」→「受託研究」



● ネックレスの留め金具

真珠ネックレスの留め金具を作る際、以前は金や銀の口ウ材が用いられていましたが、エポキシ樹脂での接着で十分に対応可能であることを実証試験し省力化に貢献しました。現在、製造現場で活用されています。

支援の流れ:「技術相談」→「依頼試験」



● メール機能付き宅配ボックス

マンションに取り付けられる宅配用ボックスに配送物が入れると、該当する住人あてにメールで配送を知らせるためのソフトウェアの開発を行いスムーズな製品化に貢献しました。

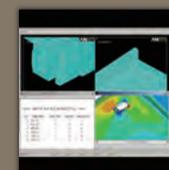
支援の流れ:「技術相談」→「受託研究」



● 加工時間を1/2に

それまで加工に丸2日を要していた切削時間の短縮が課題となっていた中で、工具と加工条件の詳細な見直しと試験を繰り返しながら検討し、8時間程度にまで短縮化しました。

支援の流れ:「企業巡回」→「技術相談」→「重点支援事業」



● CAEによる設計支援

装置に取り付けられるコントローラーの振動特性と軽量化とを考慮した筐体設計が課題となる中でCAEを活用し部品形状の最適設計を行い、スムーズな製品開発に貢献しました。

支援の流れ:「技術相談」→「依頼試験」



● リユースカップのデザイン開発

イベント等で使用した後に回収～洗浄し再利用するリユースカップ。三次元CADと光造形機を駆使してデザイン～試作支援をテンポよく行い、スムーズな製品化を実現しました。現在、VFKの試合会場等で使用されています。

支援の流れ:「技術相談」→「特定技術支援(CG・CAD/CAM)」



● 液化炭酸ガスを使用した仕込み法

共同研究中に考案した液化炭酸ガスを使用した仕込み方法について講習会形式でワインメーカーに情報提供を行いました。現在、13社がこの技術を使用して仕込みを行い、製品の出来上がりを待っている状況です。

支援の流れ:「技術相談」→「共同研究」→「技術講習会」